

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (都市と農山漁村の教育交流事業)

事業名 自然体験を軸とした広域教育交流事業 『旭岳お宝さがしツアー』
 団体名 東川町地域プラットフォーム

【事業のポイント】

- 東川町と旭川市の児童が一緒に行う体験活動
- 自然をわかりやすく伝えるため地元の自然ガイドによるプログラム提供
- 季節による自然の違いを感じられる活動場所
- 旭岳にリピートしてもらえるような楽しい探索



自然保護監視員さんに聞き取り調査中

1 企画

(1) 事業実施の背景

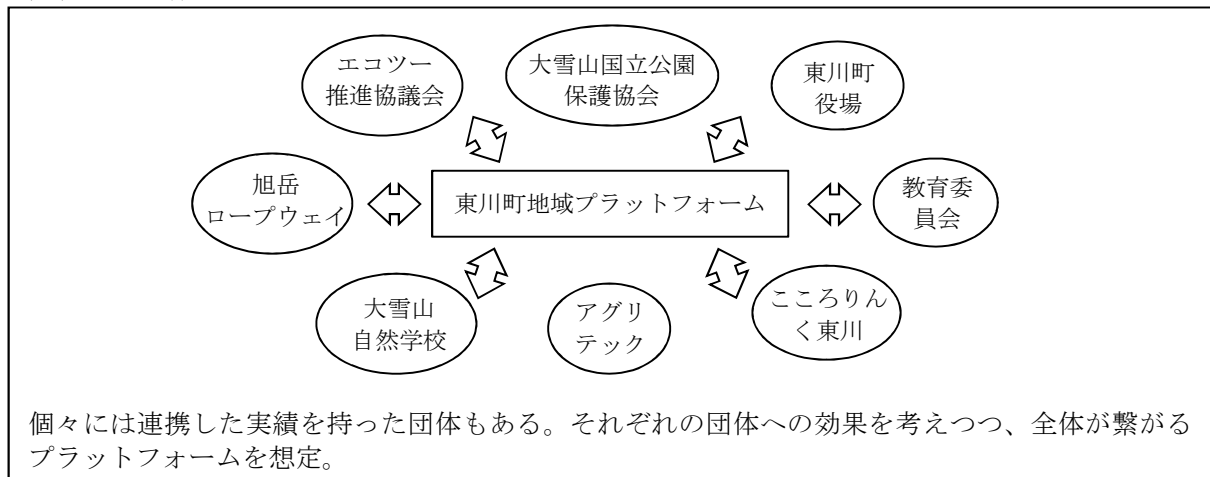
大雪山国立公園は日本有数の山岳国立公園であり、観光客が多く訪れる地域の象徴的な自然環境である。しかし、地元東川町の子ども達はその自然を体験する機会が少なく、また、東川町に隣接する北海道第二の都市である旭川市も、大雪山を遠望する地理的条件にありながら、やはりそこまで足を運ぶ機会が少ない。理由としては、子どもが簡単に行くことができる距離ではなく、ロープウェイに乗るにも料金がかかることなどが挙げられる。多くの子どもが大雪山の自然をより身近に感じてもらうことで、自分達の宝物として感じてもらうことが望まれている。

(2) ねらい

- 子どもに大雪山旭岳の特徴的な自然環境を発見してもらう。そのために、ワークシートなどを活用して子どもが自発的に動植物や地形などを注意深く観るような活動をする。
- 初めて会った子ども同士が気軽に話しながら活動してもらう。そのために、アイスブレイクなどで交流を促す。
- 低中高学年それぞれの子どもに面白いと思わせる発見や活動をしてもらう。そのために、学年別のミッションを用意したり、探索距離を体力に合わせた活動をする。

2 実施概要

(1) 実施主体



(2) 開催実績

月 日	内 容
5月末	事業日程の調整及び運営体制の検討
6月 3日 (水)	東川町地域プラットフォーム形成事業第1回委員会議
6月14日 (日)	お宝さがしツアー 春編
7月 2日 (木)	東川町地域プラットフォーム形成事業第2回委員会議
7月17日 (金)	プラットフォームつうしん『ぷらっと vol. 1』配布
7月20日 (月・祝)	お宝さがしツアー 夏編
7月28日 (火)	東川町地域プラットフォーム形成事業第3回委員会議
9月 4日 (金)	プラットフォームつうしん『ぷらっと vol. 2』配布
9月 6日 (日)	お宝さがしツアー 秋編
10月15日 (木)	東川町地域プラットフォーム形成事業第4回委員会議
11月12日 (木)	東川町地域プラットフォーム形成事業第5回委員会議
12月21日 (月)	プラットフォームつうしん『ぷらっと vol. 3』配布
1月28日 (木)	東川町地域プラットフォーム形成事業第6回委員会議
3月 3日 (水)	次年度に向けた現場見学
3月 6日 (日)	お宝さがしツアー 冬編

(3) 推進月間の設定

特になし

(4) 事例の収集と発信

2015年9月10日に国立青少年教育振興機構の主催で行われた、「地域プラットフォーム形成支援事業」の事例発表に群馬県前橋市と福井県おおい町と共に参加し、それぞれの取り組みについて発表した。また、発表者の萩原氏や新谷氏をはじめ主催者の皆様との交流により、取り組みの詳細や熱意に触れることができた。そこで学んだことを、東川町地域プラットフォームの委員会議で構成団体の方々に伝えた。

(5) 意見交換の場の設定

プラットフォーム委員会議では、常に活発な意見交換がなされている。

(6) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

2. (1) 開催実績に記載された灰色の行は、既に本委託の当初計画ではなかった実績で、今年度の活動のなかからプラットフォームを継続し、自然体験活動を広めていきたいという構成団体の意向により実施されてきた。来年度は、新たなプログラムとして『水育』というテーマに絞って自然体験活動を行う。上記3月6日の『お宝さがしツアー冬編』は、旭岳に降り積もった雪で遊んだり、旭岳の地下水が湧きだしている場所を見るなど、来年度の『水育』の施行プログラムを行った。

3 成果と課題

(1) 事業成果

今年度の活動は、自然体験『旭岳お宝さがしツアー』の実施と、つうしん『ぷらっと』の配布を行った。体験活動では計画や報告、反省を構成団体による委員会議で話し合いながら実施できたので、内容のブラッシュアップが図れて質の高いプログラムを提供することができた。子どもたちは、今まで知らなかった花や鳥、風景を知ることができ、驚いたり感動している様子であった。

プラットフォームを形成したことにより、これまで各団体で取り組みたいと思っていたことが実現に近づいたり、新たな活動ができるなど、自然体験活動を実施する側の機運が一層高まったことも成

果である。

- a. お宝さがしツアー（春、夏、秋編）参加者実数
計87名（定員90名、応募者数150名以上）

	内訳		単位：人	
	東川町（女）	旭川市など（女）	合計	
1年生	8（4）	9（2）	17（6）	20%
2年生	21（7）	8（4）	29（11）	33%
3年生	10（9）	6（4）	16（13）	18%
4年生	1（1）	14（3）	15（4）	17%
5年生	0	5（4）	5（4）	6%
6年生	0	5（1）	5（1）	6%
合計	40（21）	47（18）	87（39）	100%

- b. 「お宝さがしツアー参加者」アンケート結果

回答者	お宝さがしツアー参加者の保護者
回答数	41世帯分／87世帯
アンケートのねらい	・効果的な広報媒体を知る ・親が子どもにさせたい体験活動の内容を知る

- 今のお住まいの市町村はどちらですか。 東川町 56.1% 旭川市 43.9%
- お子さんの学年と性別を教えてください。
1年生 19.1% 2年生 36.2% 3年生 14.9%
4年生 19.1% 5年生 4.3% 6年生 6.4%
男 53.2% 女 46.8%
- お子さんは習い事や少年団に通っていますか。
はい 97.6% いいえ 2.4%
- 3で「1はい」と答えた方は、どのくらいの頻度で通っていますか。
週に1回 10.8% 週に2～3回 59.5%
週に4～5回 29.7% 週に6回以上 0.0%
- 3で「2いいえ」と答えた方は、今後習い事や少年団に入ることを検討していますか。
はい 100.0% いいえ 0.0%
- 学校以外で行う体験活動にお子さんを参加させたいと思いますか。（6段階）
そう思わない ←—————→ そう思う
1 2 3 4 5 6
2.4% 0% 0% 7.3% 7.3% 82.9%
- これまでにお子さんを学校以外で行う体験活動に参加させたことがありますか。
初めて 19.5% 年に2～3回 41.5%
年に4～5回 29.3% 年に6回以上 9.8%
- 体験活動に参加させるとしたら都合の良い日はいつですか。（複数回答あり）
放課後 12.2% 土曜日 2.4% 日曜日 0%
土日 73.2% 長期休み 29.3% 決まっていない 24.4%
- 体験活動についてどんな方法で情報が発信されると、受け取りやすいですか。（複数回答あり）
公共施設のポスターやチラシ 12.2% フリーペーパー掲載 14.6%
新聞折り込みチラシ 12.2% 学校からの個別配布チラシ 92.7%
インターネット 9.8% 新聞掲載 4.9% その他 0.0%
- お子さんに体験させたい活動内容は何か。（複数回答あり）
自然 85.4% スポーツ 48.8% ものづくり 53.7%
音楽 12.2% 科学 34.1% 料理 22.0%
農林業 22.0% 職業 14.6% 美術 9.8%
昔遊び 12.2% 外国文化 17.1% その他 0%

「今日一番のお宝は何ですか？」

・チングルマ ・エゾシマリス ・自然 など

「今日一番大変だったことは？」

・岩がいっぱいあるところを登ったこと ・歩くこと など

「来る前に旭岳について思っていたことや、心配していたことは？」

・寒いかと思った（9／6） ・熊と出くわしたら ・リスがみられるかな など

「来てみてどうでしたか？」

・ロープウェイが楽しかった ・楽しかった ・景色が良かった など

「これまで旭岳や大雪山に来たことがありますか？」

・ない ・お宝さがしツアーできた ・山に登った など

「学校や家族以外で自然の中で遊んだり体験したことがありますか？」

・ない ・キャンプ ・山登り など

「今度自然の中でやってみたいことは何ですか？」

・もう一度来たい ・スキーとそり ・もっと動物を見たい など

アンケート結果考察

アンケートのねらいの一つである効果的な広報媒体としては、学校で直接子どもに配られるチラシによる方法が、圧倒的に効果が高いことがわかった。民間団体では直接学校にチラシを配ることは難しいので、教育委員会が主体として加わっているプラットフォームの機能が発揮された。また、親が子どもにさせたい体験活動内容は、自然体験活動に参加しているだけあってその希望は多かったが、それ以外では、ものづくりという回答も多かった。クラフトマンが多くいる東川町の体験活動として今後プログラム作りを検討したい。東川町も旭川市も参加者の多くは低学年であった。東川町の実情からすると3年生からは少年団に参加する子どもが多く、習い事も増えることが理由に挙げられる。日々の少年団活動だけではなく、年に数回行われる自然体験活動に参加してもらうためにどうすればよいかを検討する必要がある。

c. つうしん『ぷらっと』

配布枚数 1, 350枚（450枚×3回）

配布対象 東川町全児童

成果として、町内で活動している団体の紹介となったことは挙げられるが、『ぷらっと』を見て体験活動に参加したり、問い合わせのあった件数は、どの団体とも数件程度であった。この結果を各団体にフィードバックし、体験活動へ参加を促すためには何が必要かを検討する必要がある。広報活動については来年度以降も委員会議などで検討していく。

（2）事業運営上の課題

子ども達が、自然への関心を高め身近な自然でも気軽に触れ合うためには、プラットフォームで行っていた関係者同士の意見交換や、実際の体験活動を継続させることが大切である。そのためには資金の確保が一番の課題となる。特に民間の団体が多い構成では、形に表しにくい事務作業やコーディネート業務などの労務に対する経費を賄う必要があるが、なかなか助成金などでも負担が難しく、行政職員が事務局を担うこととなる。しかし、行政の人事異動や政策変更により安定して継続することは確実ではない。資金面も含めどの団体にとってもメリットがあるよう検討していく必要がある。

（3）事業成果の普及啓発の課題

体験活動の成果は現しにくいのが、事業を継続していくことが大切である。継続し周囲から認知され新たに協力者の輪を広げることで、たくさんの人が事業に参加することが望まれる。そのためには、参加者が満足する質の高いプログラムを実施し、事業報告や成果を関係者を始め様々なメディアで発信して評価を得ることが課題となる。その実績を素に、体験プログラムを観光客に楽しんでもらったり、学校活動に導入してもらうなど、参加者の裾野を広げることにつながっていくと思われる。

4 団体プロフィール

NPO法人大雪山自然学校	
代表理事	荒井一洋
所在地	〒071-1404 北海道上川郡東川町西4号北46番地
TEL / FAX	0166-82-6500
E-mail	daisetsu@neos.gr.jp
HP	http://www.neos.gr.jp
東川町周辺で人と自然・人と人の豊かな出会いをつくりだすエコツアー、子どもの自然体験活動等の企画・運営や講師派遣を行っています。受託事業として旭岳・天人峡地区での環境保全対策事業を行っている団体です。	

有限会社アグリテック	
代表取締役社長	中田浩康
所在地	〒071-1464 北海道上川郡東川町進化台781-6
TEL / FAX	0166-82-0800 / 0166-82-3040
E-mail	info@agtec.co.jp
HP	http://www.agtec.co.jp/
地域資源を活用し体験型観光やグリーンツーリズムの持つ可能性を事業化した交流人口増加で地域活性化を目指すお仕事をしています。	

NPO法人ノーマライゼーションサポートセンターこころりんく東川	
所在地	〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1丁目7-10
TEL / FAX	0166-82-2666 / 0166-82-2635
HP	http://blogs.yahoo.co.jp/cocorolinkhigasikawa
こころりんは地域の皆さんが自由に入出入りし、交流を深め、人と人とのつながりから、住みよい地域を作っていくための発信基地です。交流の場として、誰でも自由にお使いになれますし、主に知的障がいのある方々の地域での暮らしを支えるサービスをしています。家族を支援するだけでなく、障がいのある人たちが困らないよう、将来を見据えた支援を行います。	

東川エコツーリズム推進協議会	
所在地	0711492 北海道上川郡東川町
TEL	090-3890-2291
E-mail	higashikawapu@gmail.com
HP	http://higashikawapu.blog21.fc2.com/
<p>簡単な説明 写真の町・東川町（北海道上川郡）で展開するエコツーリズム事業団体。</p> <p>(1) 企画・実施事業 ①東川エコツーリズム ②地域発信型ツアー ③滞在型観光</p> <p>(2) 組織体制整備 ①インフォメーション・ガイドセンター機能検討</p> <p>(3) 人材育成 ①地域次世代人材育成 ②ガイド研修</p> <p>(4) その他 ①広報活動 ②自然保護啓蒙・活動 ③資源調査 ④その他</p>	

ワカサリゾート株式会社 旭岳事業部（旭岳ロープウェイ）	
所在地	〒071-1472 北海道上川郡東川町旭岳温泉
TEL / FAX	0166-68-9111 / 0166-68-9112
HP	http://wakasaresort.com/asahidakeropeway/index.htm
	
旭岳ロープウェイ山麓駅	